

《狂言面 狐》室町時代



華麗、優美、幽玄の美 — 能の華、 装束と面を鑑賞する

能、絢爛豪華な装束と面 林原コレクションによる
2017.4.8〔土〕— 5.14〔日〕

《能面 小面 銘環》
江戸時代



※掲載作品はすべて林原美術館蔵

岡 山市の林原美術館には、備前岡山藩池田家の伝来品を中心とし、質・量ともに近世染織を代表する能装束と面が所蔵されています。池田家は初代藩主光政以降、江戸時代を通じて能に親しみ、特に二代綱政、三代継政は能役者を抱え、自ら舞い、多くの謡曲を書き記しました。歴代藩主の好みを反映し、永らく大切に伝えられてきた大名家の能楽資料。本展ではこれらの中から、能装束、狂言装束、能面、狂言面の優品が一堂に展示されます。

能の舞台の楽しみのひとつは、装束の美しさを鑑賞することにあります。能装束は舞台に映え、役柄の特徴をよく表すものも多く、定められた形の中で実に豊かな意匠が表出されます。たとえば、《能装束 段替り縞と巴文厚板》は、赤地に縞と巴文を青・白・黄・茶などで織り出し、段替りに配しています。厚板は男役や荒神などに用いられる装束ですが、力強い役柄にふさわしい印象的なデザインです。また、《能装束 段に秋野虫籠文唐織》は赤と黄に染め分けた上に、細かな秋の花を一面に織り出し、デザイン化された虫籠を野の花に埋めれるように配しています。女役の優美さを余すところなく表した優品です。《能面 小面 銘環》は、若い女性の華やぎと品格を備えた面です。



《能装束 段替り縞と巴文厚板》江戸時代

裏面に「環」の金泥銘がありますが、同コレクション中には、このような特徴的な銘のある面がいくつかみられ、藩主自ら命名がなされていた可能性もあり興味深いです。また、《狂言面 狐》など室町時代の古面には、実際の造作にこだわり過ぎない、おおらかな魅力があります。この他、重要文化財の貴重な桃山時代の装束も出品されます。大名家に伝わる美しくも格調高い名コレクションをぜひご堪能ください。

(副館長 坪井則子)

浮世絵の名品を堪能する

競演！江戸の人気浮世絵師たち
— 平木コレクション名品展
2017.5.20〔土〕— 7.2〔日〕

平 木コレクションは、浮世絵版画の一大コレクションとして戦前より知られてきました。本展は8,000点を超える収蔵品から厳選した重要美術品を含む90点を展示します。その中から3点を紹介し、一步踏み込んで鑑賞してみましょう。

美人画の巨頭・喜多川歌麿（?～1806）の描いた《煤払い》の舞台は武家屋敷。畳を上げ、姉さん被りの女性たちがきびきびと働いていますが、二人の女性に担がれる若侍の姿が見えます。煤払いの後、家の主人等を胴上げしてから

宴会を行う風習があったそうです。歳末の掃除を楽しい行事に代えてしまっているのです。

《市川鯉蔵の暫》はファンなら是非手に入れたい傑作。作者の歌川国政（1733～1810）は、歌舞伎鑑賞の趣味が高じて絵師になりました。紺屋（染物屋）職人でしたが、役者絵の歌川豊国に弟子入り、師を凌ぐ人気を博しました。鯉蔵（前名五代目市川団十郎）を、芝居好きならではの徹底した取材で、迫真の横顔を捉えました。

風景画で有名な歌川広重（1797～1858）は、花鳥画の優品も数多く生み出しました。《鴛鴦》の羽根や水流をよく見ると、凹んだ線が影となり浮かび上がる部分があります。これは空摺といい、版木に絵具をつけず擦り出して紙に凹凸を付ける手法です。その柔らかな表現が一層の叙情を醸し出しています。

会場でも、当時の風習が垣間見るところや絵師の人となり、浮世絵版画の技法の見どころなどの解説を添えて、浮世絵版画に親しく触れる機会にしたいと思います。教科書で観た作品から希少な逸品まで、出品作のいずれもがじっくり向き合いたい名品揃いです。是非ご覧下さい。

(学芸グループ主任 河内えり子)



◀ 歌川広重《鴛鴦》天保（1830～44）前期
▼ 重要美術品 喜多川歌麿《煤払い》寛政11年（1799）頃



ミュージアムショップ

雅な和雑貨、取り揃えてお待ちしております！

便利堂



扇子
各 3,240円（税込）

香彩堂

能に登場する人物たちをイメージしたスティックタイプのお香です。
能香 各 918円（税込）



龍村美術織物

ミラー 各 3,024円（税込）
懐紙入れ 各 6,480円（税込）



ミニがま口ストラップ 各 1,944円（税込）



着物ハンカチ
1,080円（税込）

※「能、絢爛豪華な装束と面」展会期中（4/8～5/14）のみの販売です。